「アール・ブリュット2020特別展　満天の星に、創造の原石たちも輝く －カワル ガワル ヒロガル セカイ－」　関連イベント

視覚障害者とつくる美術鑑賞ワークショップ　開催報告

【ワークショップ概要】

日　時 : 2020 年 10 月 3 日（土）19:00－21:00
会　場 : Zoom ミーティング
参加費 : 無料
主　催：東京都、東京都渋谷公園通りギャラリー
企画協力：社会福祉法人愛成会
運営協力：視覚障害者とつくる美術鑑賞ワークショップ

目の見える人、見えない人、様々な属性の人が作品の周りに集まって、見えること、見えないことを言葉にしながら鑑賞するプログラムです。様々な視点や経験を持ち寄って「みること」について考えます。
今回は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、参加者は Zoom を使用したオンラインで鑑賞しました。展覧会で実際に展示されている作品を、会場にて撮影する画面を通してご覧いただき、参加者同士の会話により作品を鑑賞する形でワークショップを行いました。参加者は 7 名。見える人見えない人、さまざまな見え方の方々が集まりました。

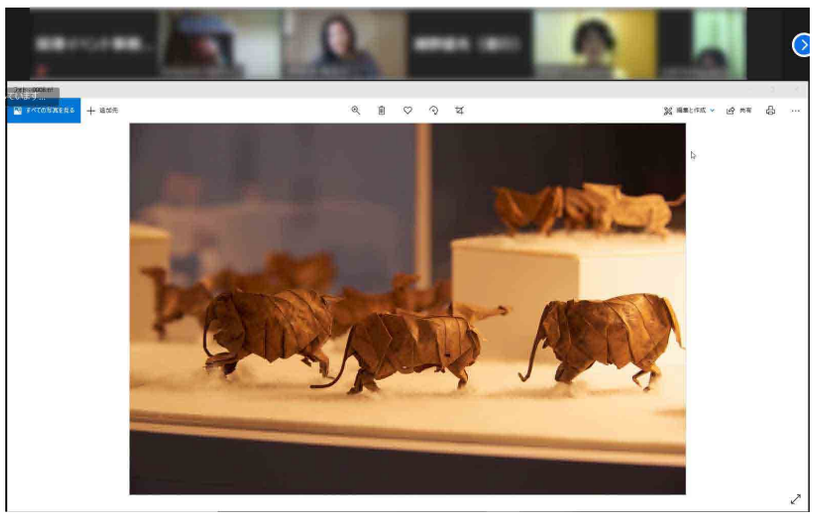
【WS の様子】

今回は澤田真一《無題》と渡邊義紘　《折り葉の動物たち》の 2 作品を鑑賞しました。
事前の作品情報の説明なしで対話を始めました。様々な見え方の方々の鑑賞と対話を通して、様々な価値観や感性、作品の見え方を共有することが出来ました。参加者はオンラインでの鑑賞が初めての方が多く、不安などもあったようですが、実施後は「いつもよりじっくり作品を鑑賞出来た」や「同じ作品でも違った見方など、感受性や感覚の交流が出来た」という感想が出るなど好評なイベントとなりました。
下記は参加者の対話の中から一部抜粋したものです。

①澤田真一《無題》

参加者（見える方）　　「教科書に載っているようなハート形の顔をしている土偶みたい」
参加者（視覚障害のある方）「土偶ですか。」
参加者（見える方）　　「ぼつぼつしている」
参加者（視覚障害のある方）「ぼつぼつというのは大仏の頭のようなイメージ？」
参加者（見える方）　　「そうですね、大仏の頭のようなぼつぼつが胴まわり、体にびっしりついているような」

②渡邊義紘《折り葉の動物たち》



参加者（視覚障害のある方）「折ってあるんですか？切ってあるんですか？」
参加者（見える方）　　「折ってあります。切り絵のみたいに切っているようなものではないです」
参加者（見える方）　　「織り目が足の付け根とかに見える」
参加者（視覚障害のある方）「手足もありますかね？」
参加者（見える方）　　「あります。全身あります」
参加者（見える方）　　「かなり形としてはリアルというか、折り紙でつくるよりは立体感がありますね」

【参加者の感想】

◆参加者（見える方）
「今回立体の作品だったので、想像が膨らむなと思いました。じっくり深く見ることができました。見えているのにわざわざ言葉にしないことや見えているのに見えていないことがあるんだなと感じました。」

◆参加者（見える方）
「オンラインでやるとどうなるのかなと思いましたが、美術館では実際にそこまで、まじまじと見ることが出来ないので、１つの作品をよく見たなと感じました」

◆参加者（見える方）
「画面に集中して作品を観察するという形にオンラインだとなるのだなと思ったのですが、参加者の方の発想が豊かで自分にはないイマジネーションを膨らませてくれました。そういう楽しみ方も楽しかったです。」

◆参加者（視覚障害のある方）
「言葉を聞いて想像することになるので、オンラインでも作品の後ろに見える渋谷の街並みの話もあったりして、作品の背景も感じられてリアルな感じがしました。」

◆参加者（見える方）
「同じものを見てもいろんな感じ方があるし、見方によっては同じものでも違った見方があったり、感受性や感覚の交流が出来てとても良かったなと思いました。」

◆参加者（視覚障害のある方）
「オンラインだからこそ、見る環境によって見え方が変わるんだなと思いました。作品が色々な感じ方ができるということが分かりました。」

◆参加者（視覚障害のある方）
「皆さんが黙ってしまったときに気まずくなってしまうのかなと思ったのですが、むしろ皆さんが今映像に見入っているのかなというようなオーラ？のようなものがヘッドホンから何となく伝わってきて、みんなで同じ場所を見ているというのを共有できれば雰囲気的なものも、別々の場所でもある程度共有できるのだなというのがすごく伝わってきました。」